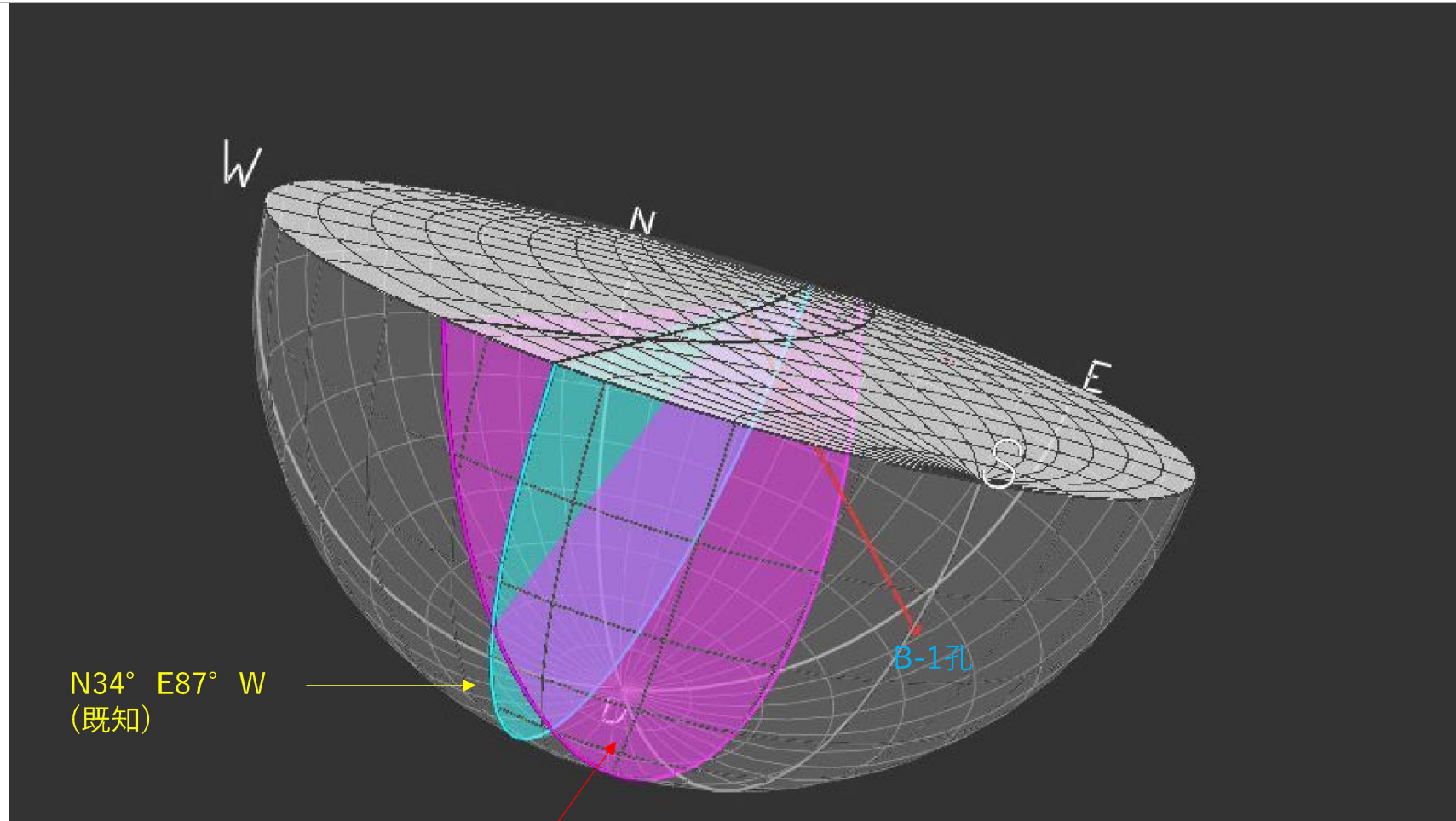


H27-B-1孔 深度75.73m の最新活動面の走向・傾斜

・ H27-B-1孔 深度75.57~76.00mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜を、走向・傾斜が既知の割れ目との見掛けの傾斜角の差(23°) から姿勢の復元を行い、最新活動面の走向・傾斜N44° E72° Eを推定した。



N44° E72° E

既知の割れ目とH27-B-1孔と直交する面との交線を回転軸として、既知の割れ目からボーリングコア上での傾斜角の差「23°」回転させた割れ目の走向・傾斜

- 走向・傾斜は性状一覧表に「N34E87NW」と記載していた。

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(17/19)

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(赤太枠)

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ断面角縁の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上端深度 (m)	下端深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
㉘	H27-B-1 (傾斜45°)	49.17	49.22	N47E	45W	3.0	1.5	無	-	30L	正	右	49
㉙	H27-B-1 (傾斜45°)	52.72	52.81	N15E	82E	7.2	-	-	-	10R	-	左	52
㊀	H27-B-1 (傾斜45°)	53.17	53.22	N27E	64W	4.8	0.2	無	-	90	正	-	53
㊁	H27-B-1 (傾斜45°)	69.70	69.73	N25E	82E	2.4	0.1	無	-	20L	-	右	69
㊂	H27-B-1 (傾斜45°)	74.36	74.50	N15E	85W	10.7	0.7	無	-	70L	正	-	74
㊃	H27-B-1 (傾斜45°)	75.57	76.00	N34E	87NW	18.2	-	-	-	90	逆	-	75
㊄	H27-B-1 (傾斜45°)	78.72	78.87	N17E	71E	13.1	0.2	無	-	30L	正	右	78
㊅	H27-B-1 (傾斜45°)	113.51	113.60	N21E	69E	8.3	0.2	無	-	30L	正	右	113

凡 例

	:最新活動面		:破碎幅		:断層ガウジ		:粘土の狭在物が認められる箇所	*1:露頭
								*2:試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

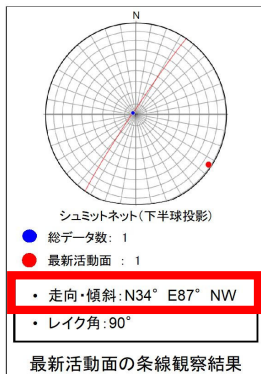
参考2-189

- 走向・傾斜は薄片観察結果に「N34E87NW」と記載していた。

非モデル化破碎部 薄片試料観察 (H27-B-1 深度75.73m)

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(赤太枠)

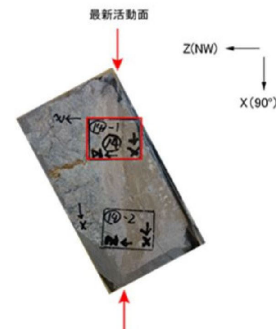
H27-B-1のボーリングコア(深度75.73m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、逆断層成分が卓越する。



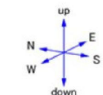
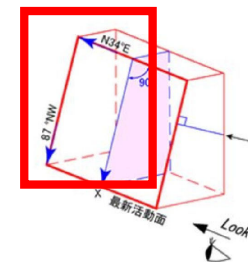
最新活動面

最新活動面

最新活動面の条線観察結果

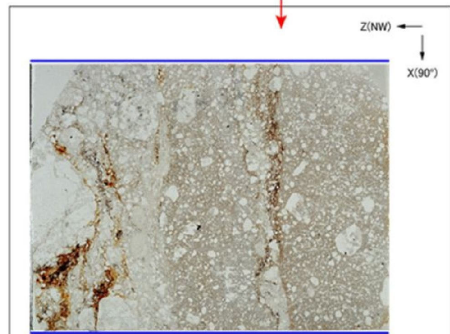


薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

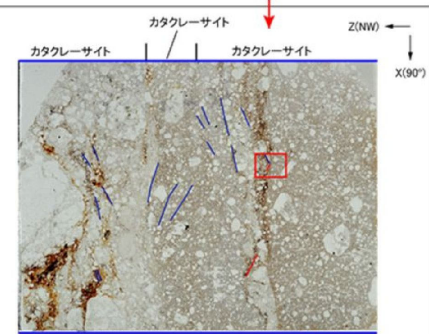


走向・傾斜 N34°E 87°NW

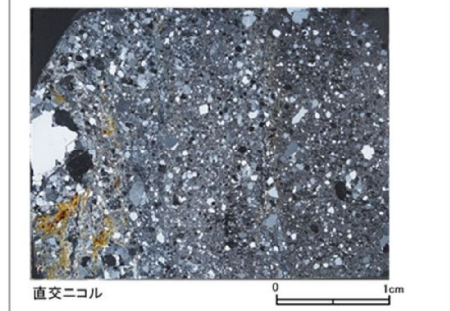
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



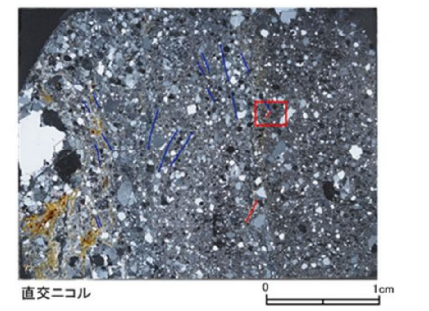
単ニコル



単ニコル

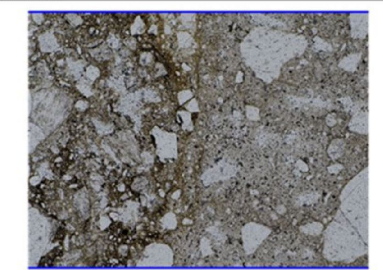


直交ニコル



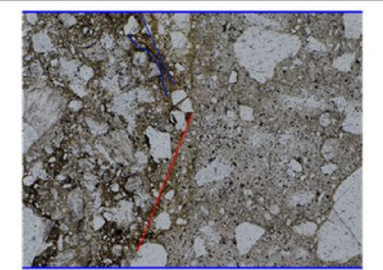
直交ニコル

赤枠内の拡大

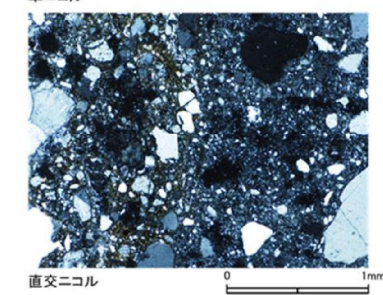


単ニコル

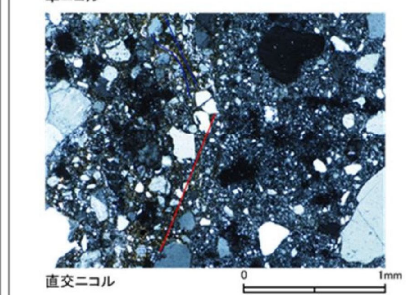
赤枠内の拡大



単ニコル



直交ニコル



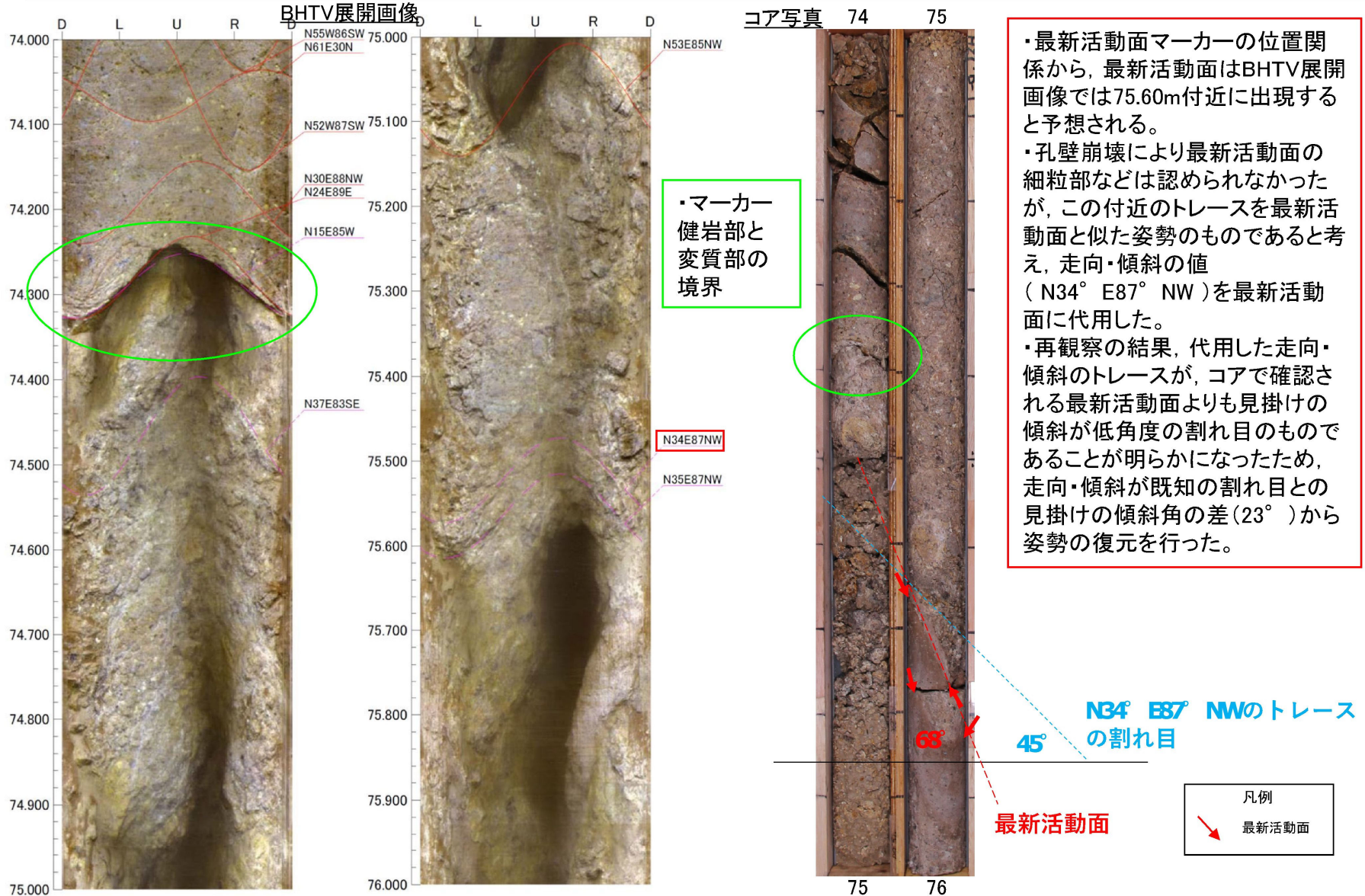
直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

ボアホールカメラ展開画像との対比結果(H27-B-1 深度75.57~76.00m)

48のエビデンス
(走向・傾斜) (1/3)

・H27-B-1孔 深度75.57~76.00mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜をN34° E87° NWで代用したが、これはコアで確認される最新活動面よりも見掛けの傾斜が低角度の割れ目のものであることが明らかになったため、走向・傾斜が既知の割れ目との見掛けの傾斜角の差(23°)から姿勢の復元を行った。



・最新活動面マーカ

・位置関係から、最新活動面はBHTV展開画像では75.60m付近に出現すると予想される。

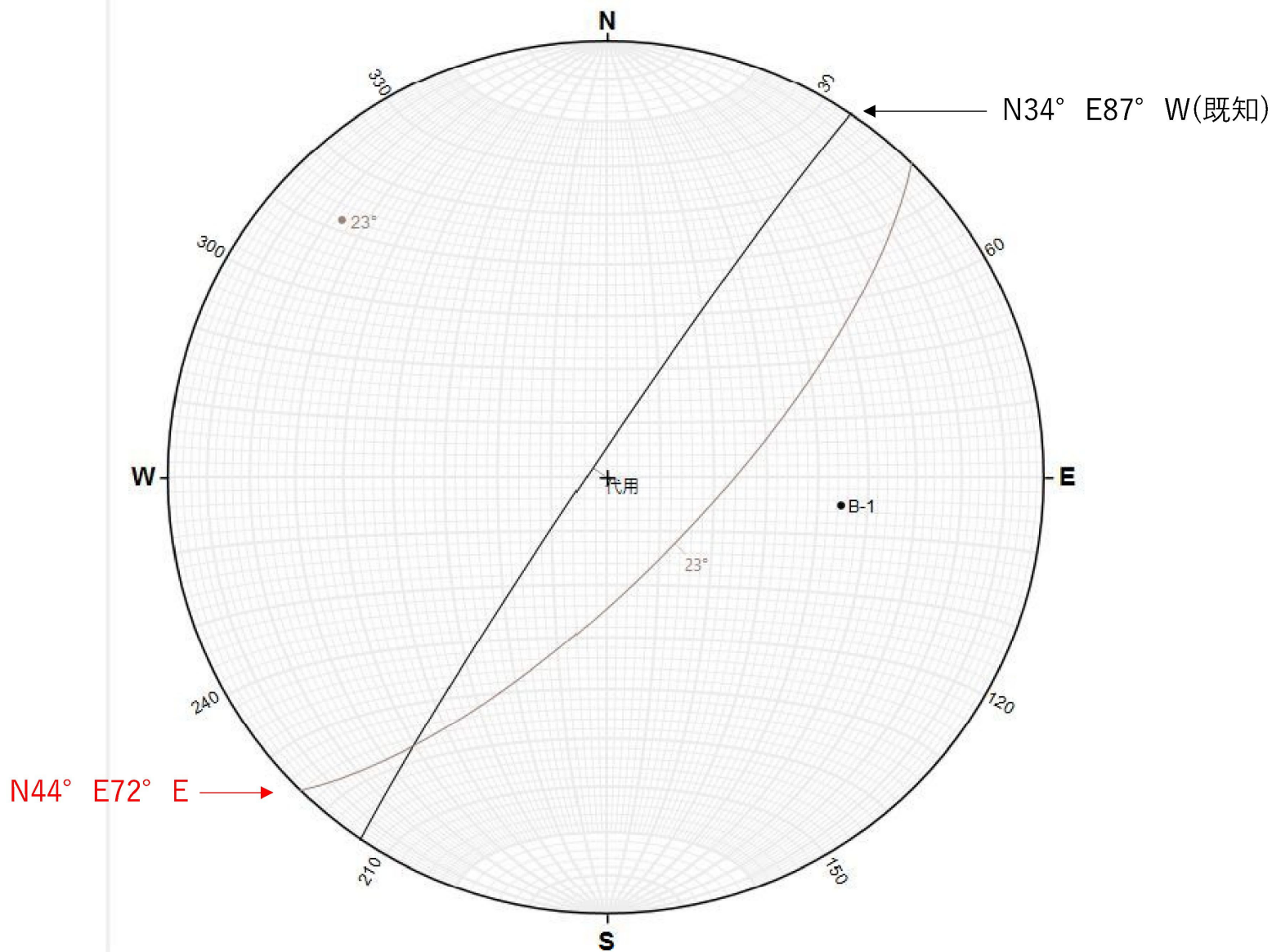
・孔壁崩壊により最新活動面の細粒部などは認められなかったが、この付近のトレースを最新活動面と似た姿勢のものであると考え、走向・傾斜の値(N34° E87° NW)を最新活動面に代用した。

・再観察の結果、代用した走向・傾斜のトレースが、コアで確認される最新活動面よりも見掛けの傾斜が低角度の割れ目のものであることが明らかになったため、走向・傾斜が既知の割れ目との見掛けの傾斜角の差(23°)から姿勢の復元を行った。

H27-B-1孔 深度75.73m の最新活動面の走向・傾斜

48のエビデンス (走向・傾斜) (2/3)

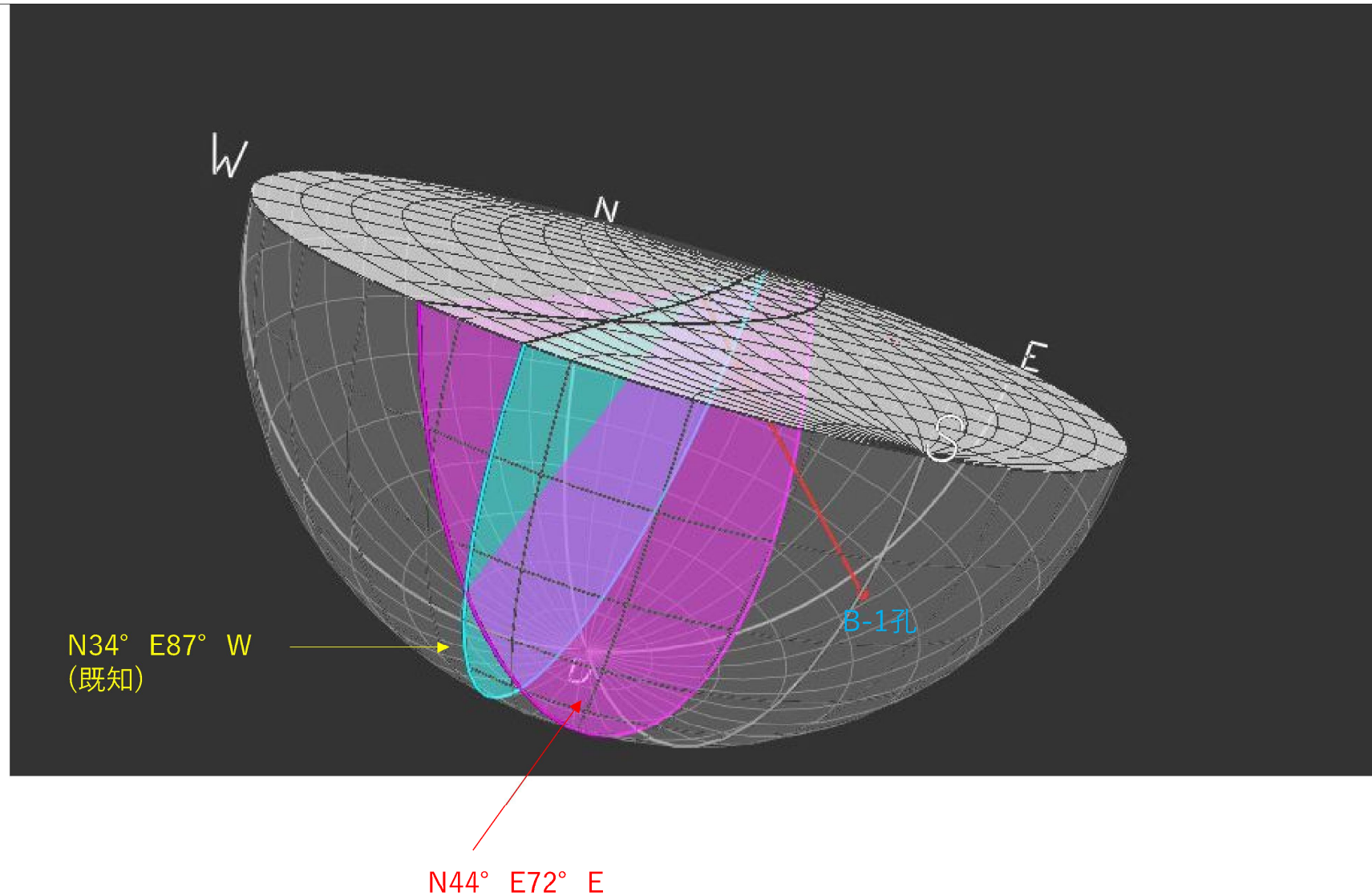
・ H27-B-1孔 深度75.57~76.00mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜を、走向・傾斜が既知の割れ目との見掛けの傾斜角の差(23°)から姿勢の復元を行い、最新活動面の走向・傾斜N44° E72° Eを推定した。



H27-B-1孔 深度75.73m の最新活動面の走向・傾斜

48のエビデンス (走向・傾斜) (3/3)

- ・ H27-B-1孔 深度75.57~76.00mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜を, 走向・傾斜が既知の割れ目との見掛けの傾斜角の差(23°) から姿勢の復元を行い, 最新活動面の走向・傾斜N44° E72° Eを推定した。



- 条線方向は観察面の走向・傾斜を用いて観察された条線を補正して導出している。条線の観察は適切に行われていた*が、走向・傾斜がN44° E72° Eに変更になることにより、条線方向は88Rに変更となる(副次的変更)。
 ※最新活動面である条線観察位置(深度75.73m)において採取した試料を用いて、今回設定したプロセスによって観察した条線方向(赤枠写真)により、当時の観察は正しいことを確認した。

条線観察結果(H27-B-1孔 深度75.73m)

H27-B-1孔 深度75.73mの断層面の走向・傾斜はN44° E72° E*であり、88° Rの条線が認められる。(※破碎部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから、同一ボーリングコアの他の不連続面と本破碎部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用)

コア写真



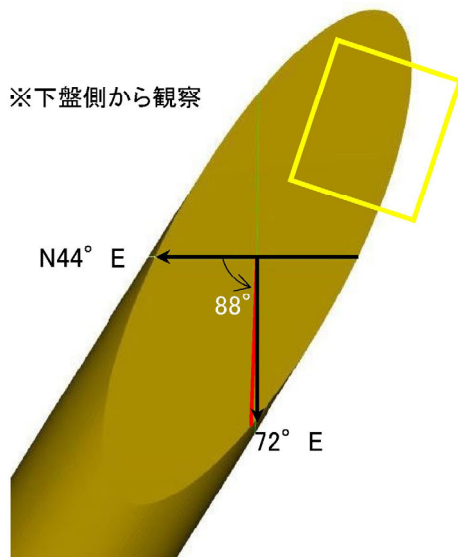
凡例

- 条線観察位置 (Blue arrow)
- 断層ガウジ (Yellow box)
- 破碎部範囲* (Black arrows)
- 最新活動面 (Red arrow)

※:写真上は白色で記載

観察模式図は、条線の観察状況を示すため下盤側から上盤側を見た図として作成している。写真は条線方向の表記(条線方向は上盤から見た方向で表記する)と合わせるため、上盤側から下盤側を見ているように観察面の写真を反転している。

観察模式図



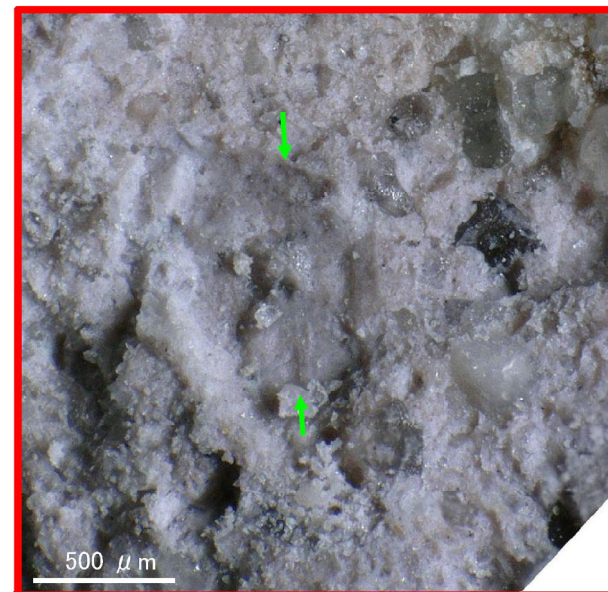
凡例

- 最新活動面 (Yellow oval)
- レイク (Red arrow)

条線観察位置拡大



赤枠内拡大



凡例

- 条線方向 (Green arrows)

- 条線観察位置を残試料より復元し、最新活動面位置(深度75.73m)で計測していることを確認した。

コア写真



研磨片作製位置



青枠部拡大



凡例
最新活動面

研磨片写真(斜めから)



凡例
試料切断方向

条線計測のため、研磨面と平行方向に切断

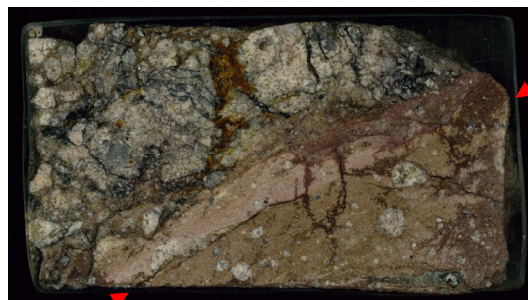
凡例
← → 破碎部範囲*
※:写真上は白色で記載

条線観察位置



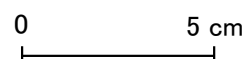
凡例
条線観察位置

研磨片写真



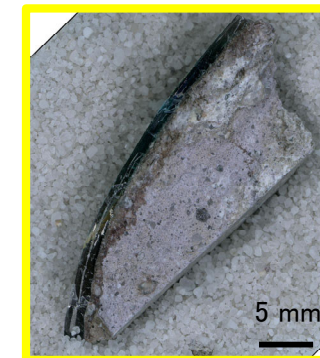
凡例
最新活動面

試料切断面



凡例
最新活動面

条線観察位置拡大



黄枠部拡大



注)条線方向は上盤から見た方向で表記するため、前頁の写真は反転している。

・ 条線方向は性状一覧表に「90」と記載していた。

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(17/19)

第833回審査会合資料 机上配布資料2に追記(赤太枠)

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ断層角種の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真	
		上端深度 (m)	下端深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
⑧	H27-B-1 (傾斜45°)	49.17	49.22	N47E	45W	3.0	1.5	無	-	30L	正	右	49	50
⑨	H27-B-1 (傾斜45°)	52.72	52.81	N15E	82E	7.2	-	-	-	10R	-	左	52	53
⑩	H27-B-1 (傾斜45°)	53.17	53.22	N27E	64W	4.8	0.2	無	-	90	正	-	53	54
⑪	H27-B-1 (傾斜45°)	69.70	69.73	N25E	82E	2.4	0.1	無	-	20L	-	右	69	70
⑫	H27-B-1 (傾斜45°)	74.36	74.50	N15E	85W	10.7	0.7	無	-	70L	正	-	74	75
⑬	H27-B-1 (傾斜45°)	75.57	76.00	N34E	87NW	18.2	-	-	-	90	逆	-	75	76
⑭	H27-B-1 (傾斜45°)	78.72	78.87	N17E	71E	13.1	0.2	無	-	30L	正	右	78	79
⑰	H27-B-1 (傾斜45°)	113.51	113.60	N21E	69E	8.3	0.2	無	-	30L	正	右	113	114

凡 例

:最新活動面
 :破碎幅
 :断層ガウジ
 :粘土の狭在物が認められる箇所
 *1:露頭
 *2:試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

条線観察結果(H27-B-1孔 深度75.73m)

49のエビデンス (条線)

H27-B-1孔 深度75.73mの断層面の走向・傾斜はN44° E72° E※であり、88° Rの条線が認められる。(※破碎部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから、同一ボーリングコアの他の不連続面と本破碎部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用)

コア写真

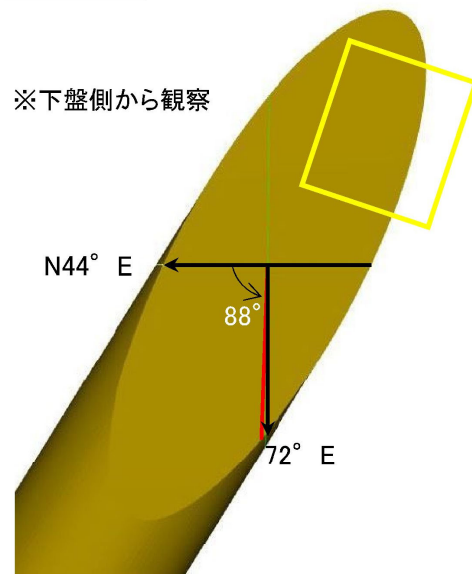


凡例

- ← 条線観察位置
- 断層ガウジ
- ← → 破碎部範囲※
- 最新活動面

※:写真上は白色で記載

観察模式図



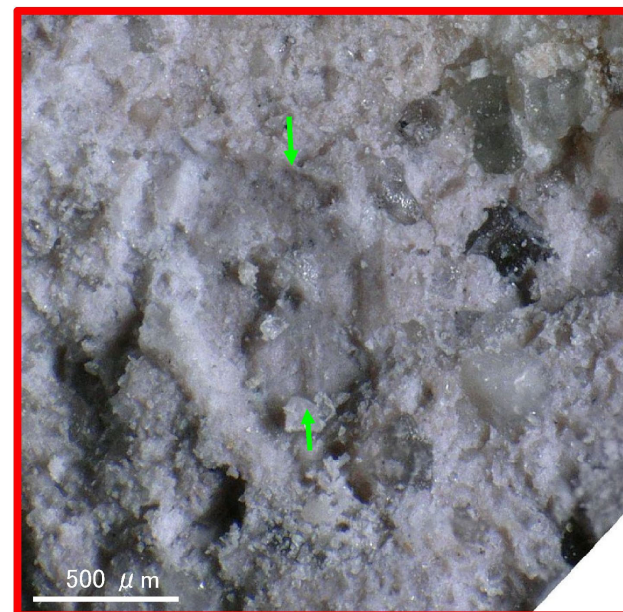
凡例

- 最新活動面
- レイク

条線観察位置拡大



赤枠内拡大



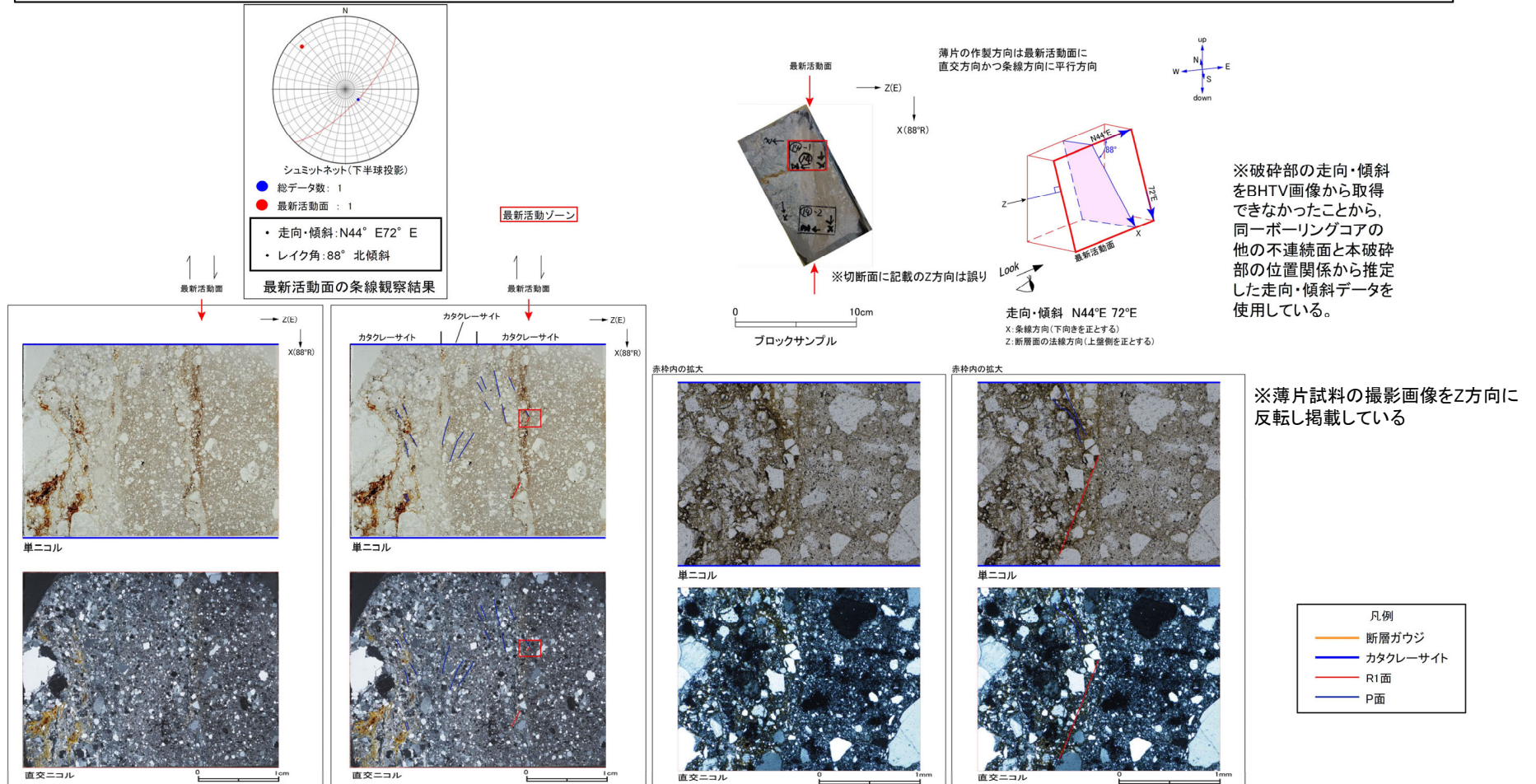
凡例

- 条線方向

・薄片試料の観察自体は適切に実施されていたが、走向・傾斜(N34° E87° NW →N44° E72° E), 条線方向(90° →88° R)が変更になることにより、傾斜方向が西傾斜から東傾斜に変更となるため、変位センスは「正断層成分が卓越する。」に変更となる(副次的変更)。

H27-B-1 深度75.57~76.00m (1/3)

- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度75.73m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
 - (カタクレーサイト)基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト)組織は漸移的に変化する。
 - (カタクレーサイト)多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。
 - (カタクレーサイト)塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

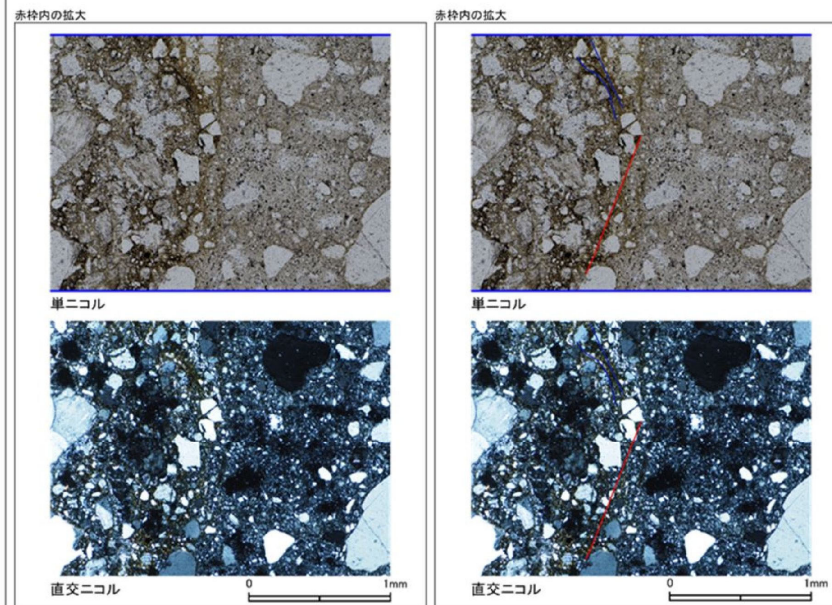
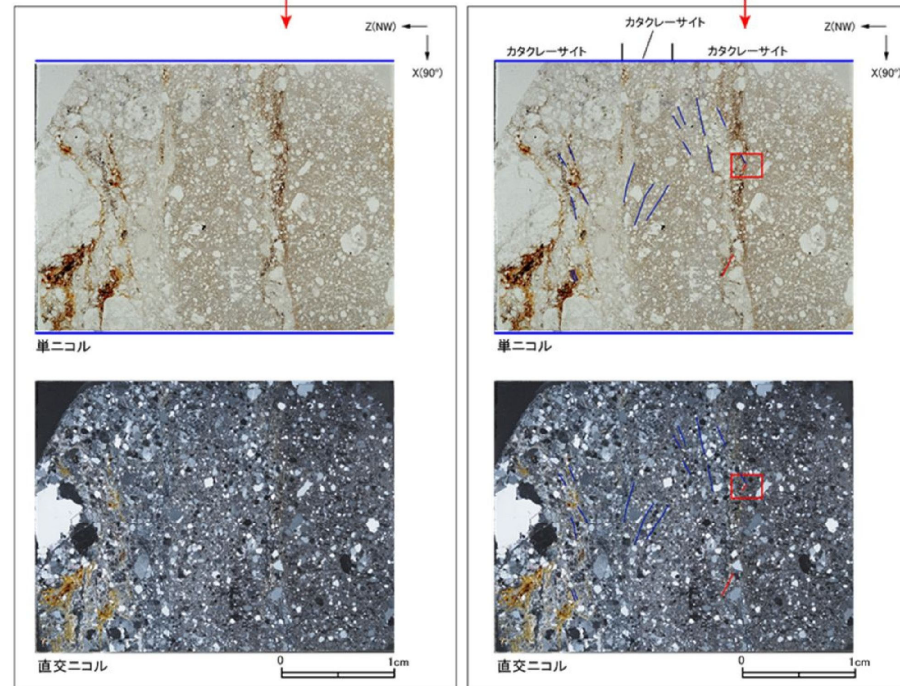
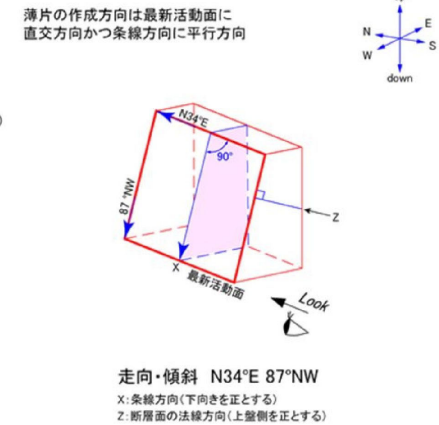
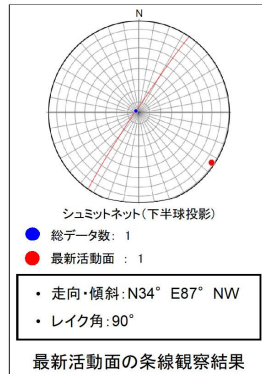


変位センスは「逆断層成分が卓越する。」と薄片観察結果へ記載し、同じ情報を性状一覧表にも記載していた。

非モデル化破碎部 薄片試料観察 (H27-B-1 深度75.73m)

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(赤太枠)

H27-B-1のボーリングコア(深度75.73m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは **逆断層成分が卓越する。**



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-1 深度75.57~76.00m (1/3)

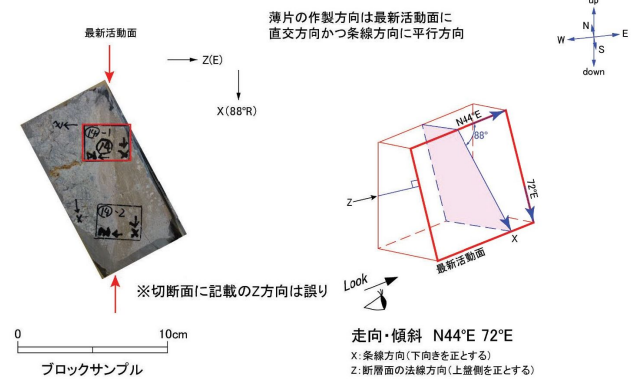
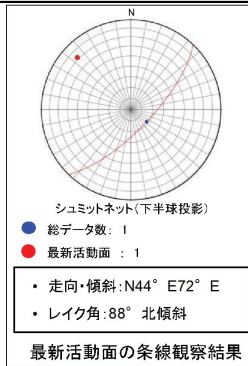
青枠：変位センスに関する部分

50のエビデンス (変位センス) (1/3)

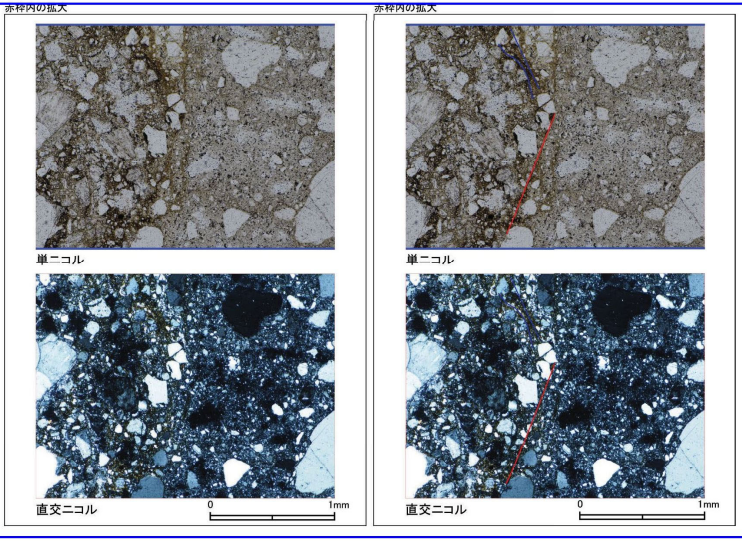
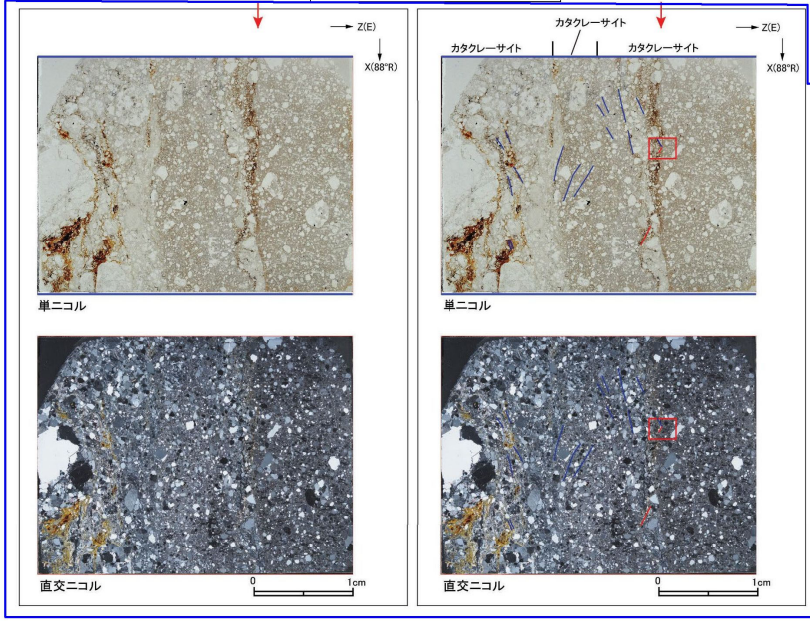
・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度75.73m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 組織は漸移的に変化する。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



※破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから、同一ボーリングコアの他の不連続面と本破砕部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用している。



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

- 変更したH27-B-1孔(深度75.57~76.00m)の破碎部を起点として、隣接するH24-D1-1孔(北側)とH27-B-2孔(南側)で確認した破碎部との連続性を検討した。
- 連続性評価基準に基づき検討した結果、H24-D1-1孔の深度91.26~91.52mの破碎部のみと連続し、H27-B-2孔の破碎部とは連続しないと評価した。
- よって、破碎帯名は非モデル化破碎部からf-d1-1-11に変更となる(副次的変更)。

孔名	破碎部番号	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅(cm)	断層ガウジ・断層角礫の有無			断層ガウジ・断層角礫の幅(cm)※3	最新活動明瞭なせん断構造変形構造※2	条線方向	変位セン※4		破碎帯名
		上端深度(m)	下端深度(m)				肉眼	薄片	総合評価				鉛直	水平	
H27-B-1	⑭	75.57	76.00	N44E	72E	18.2	有	無	無	-	-	88R	正	-	
H24-D1-1	①	45.91	48.28	N1E	58W	233.4	有	無	無	-	-	30R	正	左	非モデル化
H24-D1-1	②	49.20	49.91	N9W	74E	51.9	有	有	有	1.0	無	90	正	-	非モデル化
H24-D1-1	③	53.77	54.54	N22E	75E	32.5	有	有	有	1.0	無	75R	正	-	非モデル化
H24-D1-1	④	58.96	59.30	N8E	78W	28.7	有	有	有	1.4	有	-	正	-	非モデル化
H24-D1-1	⑤	60.12	60.15	N9E	88W	2.5	有	有	有	0.1	有	80L	正	-	D-1
H24-D1-1	⑥	68.84	69.00	N31W	72NE	6.9	無	無	無	-	-	85L	逆	-	非モデル化
H24-D1-1	⑦	78.77	79.19	N4E	78E	19.1	有	無	無	-	-	45R	逆	右	非モデル化
H24-D1-1	⑧	81.20	81.42	N29W	79W	18.0	有	有	有	0.4	無	0	-	左	非モデル化
H24-D1-1	⑨	89.91	89.95	N23W	86E	2.0	有	有	有	2.0	無	33L	正	右	D-33
H24-D1-1	⑩	90.26	90.84	N53W	80NE	15.0	有	有	有	0.2	有	75L	正	-	f-d1-1-10
H24-D1-1	⑪	91.26	91.52	N31E	83SE	11.8	有	無	無	-	-	75L	正	-	f-d1-1-11
H24-D1-1	⑫	93.12	93.24	N11E	83E	9.5	有	無	無	-	-	85L	正	-	非モデル化
H24-D1-1	⑬	99.68	99.71	-	-	2.0	有	有	有	1.2	無	90	正	-	非モデル化
H27-B-2	①	31.15	31.66	N7E	78W	43.1	有	有	有	1.0	無	80L	正	-	非モデル化
H27-B-2	②	34.37	34.48	N18E	46W	10.8	有	有	有	0.6	無	0	-	左	非モデル化
H27-B-2	③	35.36	35.46	N69E	79N	8.7	有	無	無	-	-	10R	-	右	非モデル化
H27-B-2	④	35.68	35.73	N7W	52W	4.1	有	有	有	0.2	無	70R	正	-	非モデル化
H27-B-2	⑤	35.92	35.95	N4E	86E	2.3	無	無	無	-	-	50L	正	右	非モデル化
H27-B-2	⑥	48.08	48.12	N38W	15NE	3.1	有	無	無	-	-	0	-	右	非モデル化
H27-B-2	⑦	54.72	54.77	N8W	79W	4.2	有	有	有	0.3	無	0	-	左	非モデル化
H27-B-2	⑧	60.26	60.69	N31E	88SE	36.5	無	無	無	-	-	75L	正	-	非モデル化
H27-B-2	⑨	61.29	61.69	N8E	89W	28.8	有	有	有	1.5	有	90	正	-	D-1
H27-B-2	⑩	63.75	63.85	N47W	24NE	8.0	無	-	無	-	-	36L	-	-	非モデル化
H27-B-2	⑪	68.02	68.06	N23E	74W	3.5	有	無	無	-	-	90	正	-	非モデル化
H27-B-2	⑫	85.58	85.76	N20E	89E	14.4	有	無	無	-	-	15L	-	右	非モデル化
H27-B-2	⑬	88.38	88.43	N26E	84E	3.9	有	有	有	0.5	無	30L	正	右	D-41
H27-B-2	⑭	88.88	88.94	N35E	72NW	5.4	有	有	有	2.0	有	25L	正	右	f-b-2-14
H27-B-2	⑮	91.69	91.76	N5W	82W	5.7	有	無	無	-	-	30R	逆	右	非モデル化
H27-B-2	⑯	120.63	120.65	N34E	77NW	1.7	有	無	無	-	-	30L	逆	左	非モデル化
H27-B-2	⑰	127.41	127.48	N18E	82E	5.6	無	無	無	-	-	20L	-	右	D-42
H27-B-2	⑱	128.82	128.97	N28E	81E	12.1	有	有	有	0.5	無	20R	-	右	f-b-2-18
H27-B-2	⑲	133.75	133.92	N6E	84E	15.4	有	無	無	-	-	22L	-	右	非モデル化
H27-B-2	⑳	134.15	134.23	N12E	66E	7.4	有	有	有	2.0	有	82L	正	-	f-b-2-20
H27-B-2	㉑	152.10	152.15	N28E	84E	4.0	有	有	有	0.1	無	30L	正	右	f-b-2-21
H27-B-2	㉒	154.53	154.71	N42E	75SE	15.7	有	有	有	0.5	有	75R	正	-	f-b-2-22

←起点の破碎部

←連続させることができる破碎部

■ 検討範囲内の破碎部 (起点の破碎部の走向・傾斜から±20°の範囲内のもの)

□ 検討範囲内の破碎部のうち起点の破碎部との走向傾斜の差が±20°以内

□ 上記のうち、断層ガウジ・断層角礫の有無について起点破碎部と性状が類似しているもの

□ 上記のうち、条線方向、変位センスについて起点破碎部と性状が類似しているもの

※3:断層岩区分の総合評価において断層ガウジ・断層角礫が「無」の場合は「-」を記載

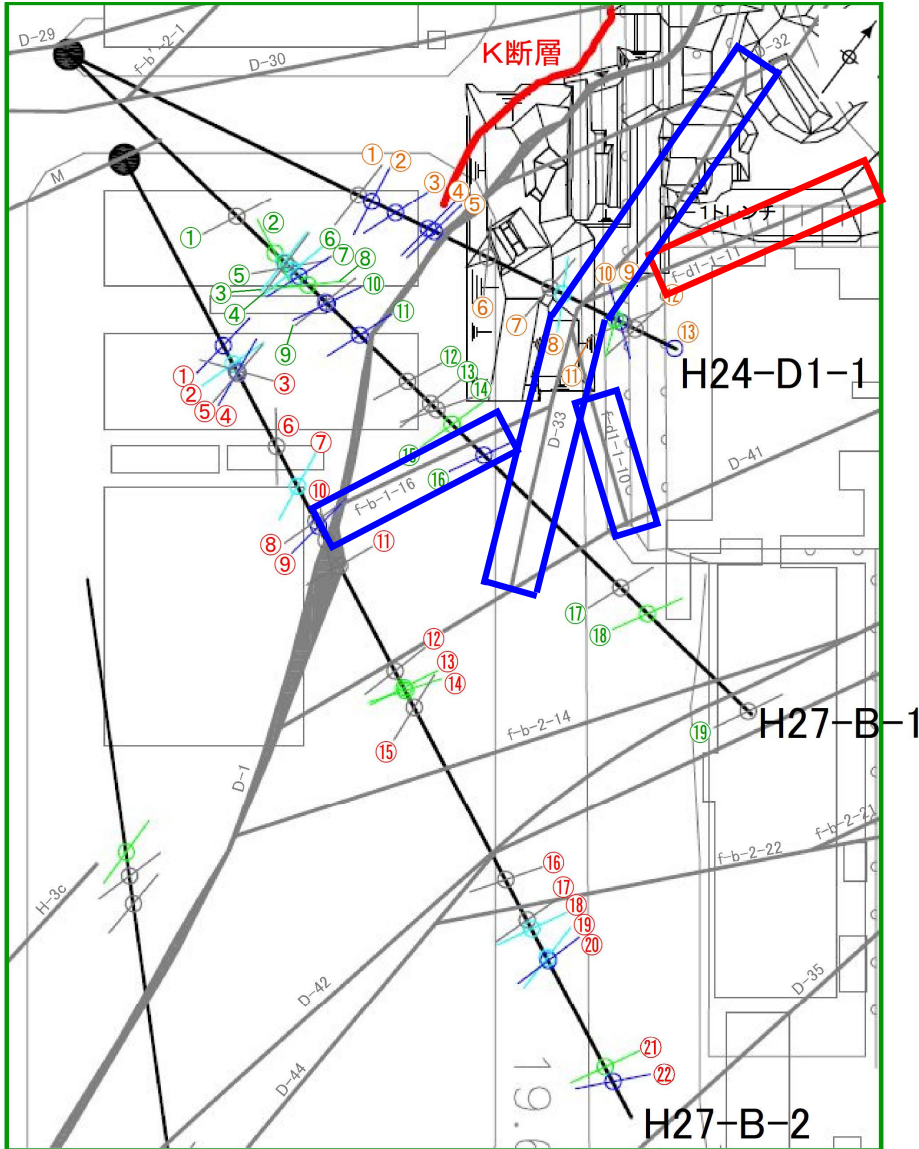
※4:卓越しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)

—(※3, ※4以外):データを取得していない箇所

※1 N34° E 87° NWから変更した。 ※2 走向・傾斜の変更で条線90° →88° R, 変位センス逆→正に変わった。

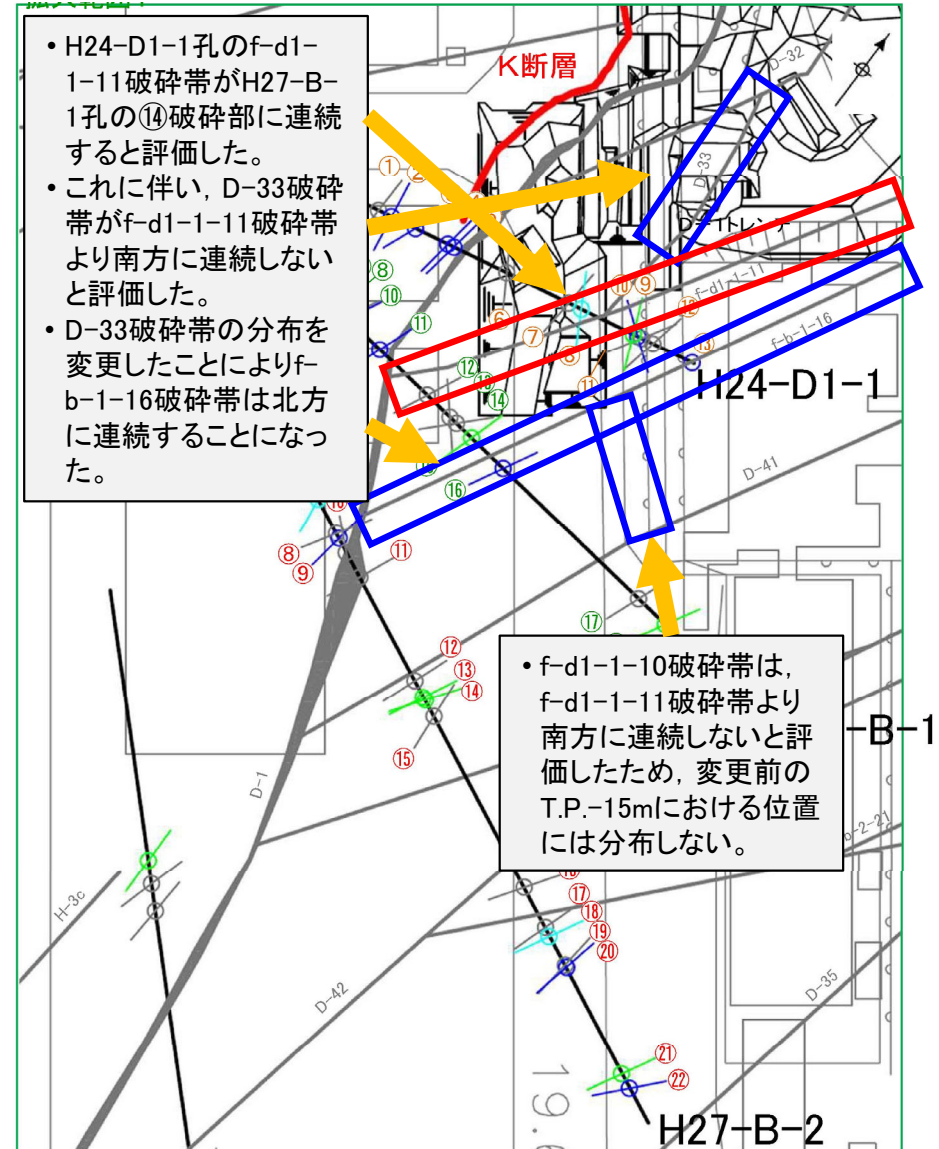
- H27-B-1孔(深度75.57~76.00m)の破碎部(⑭破碎部)の連続性評価が変更になったことに伴い、破碎帯分布図は変更となる(副次的変更)。
- 本破碎部の走向・傾斜の再評価により変更となった破碎帯(f-d1-1-11)を赤枠、f-d1-1-11破碎帯の分布が変更になったことに伴い、分布が変更となった破碎帯(D-33破碎帯、f-b-1-16破碎帯、f-d1-1-10破碎帯)を青枠で示す。

変更前



H24-D1-1孔, H27-B-1孔, H27-B-2孔の破碎部位置図
(破碎帯分部図の凡例は67, 68頁と同様)

変更後



- H24-D1-1孔のf-d1-1-11破碎帯がH27-B-1孔の⑭破碎部に連続すると評価した。
- これに伴い、D-33破碎帯がf-d1-1-11破碎帯より南方に連続しないと評価した。
- D-33破碎帯の分布を変更したことによりf-b-1-16破碎帯は北方に連続することになった。

• f-d1-1-10破碎帯は、f-d1-1-11破碎帯より南方に連続しないと評価したため、変更前のT.P.-15mにおける位置には分布しない。

H24-D1-1孔, H27-B-1孔, H27-B-2孔の破碎部位置図
(破碎帯分部図の凡例は67, 68頁と同様)

・ 当該破碎部 (H27-B-1 孔 75.57~76.00m) は性状一覧表に「非モデル化破碎帯」として記載していた。

15.非モデル化破碎帯

第833回審査会合資料 机上配布資料2に追記(赤太枠)

性状一覧表(17/19)

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層カウジ断層角強の値 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真		
		上端深度 (m)	下端深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平			
⑧	H27-B-1 (傾斜45°)	49.17	49.22	N47E	45W	3.0	1.5	無	-	30L	正	右	49		50
⑨	H27-B-1 (傾斜45°)	52.72	52.81	N15E	82E	7.2	-	-	-	10R	-	左	52		53
⑩	H27-B-1 (傾斜45°)	53.17	53.22	N27E	64W	4.8	0.2	無	-	90	正	-	53		54
⑪	H27-B-1 (傾斜45°)	69.70	69.73	N25E	82E	2.4	0.1	無	-	20L	-	右	69		70
⑫	H27-B-1 (傾斜45°)	74.36	74.50	N15E	85W	10.7	0.7	無	-	70L	正	-	74		75
⑬	H27-B-1 (傾斜45°)	75.57	76.00	N34E	87NW	18.2	-	-	-	90	逆	-	75		76
⑭	H27-B-1 (傾斜45°)	78.72	78.87	N17E	71E	13.1	0.2	無	-	30L	正	右	78		79
⑮	H27-B-1 (傾斜45°)	113.51	113.80	N21E	69E	8.3	0.2	無	-	30L	正	右	113		114

凡例
 : 最新活動面 : 破碎幅 : 断層カウジ : 粘土の狭在物が認められる箇所 *1: 露頭
 *2: 試掘坑

【破碎幅】
 粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

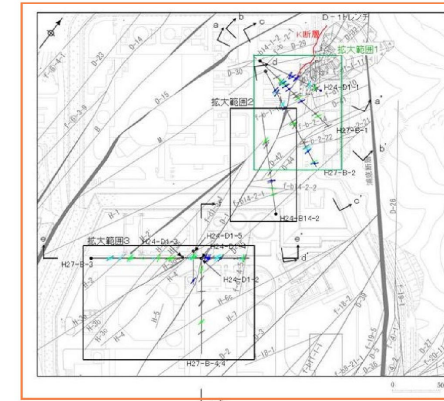
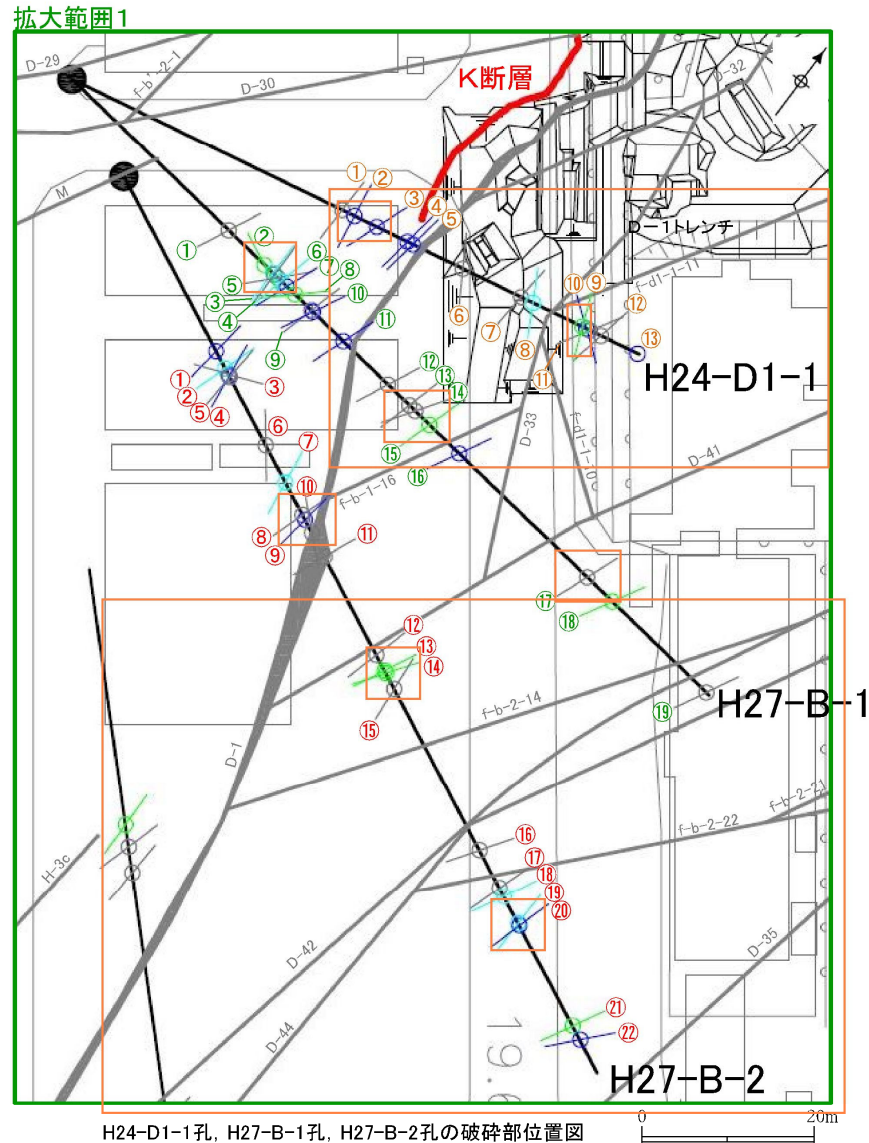
【平滑さ】
 平 滑 : 最新活動面が直線的なもの
 非平滑 : 最新活動面が湾曲するもの

参考2-189

K断層の連続性評価について

令和3年7月16日提出資料 本編資料
48~51, 76, 157 (平面図・断面図)
修正箇所: 橙色枠

修正前



平面拡大範囲図

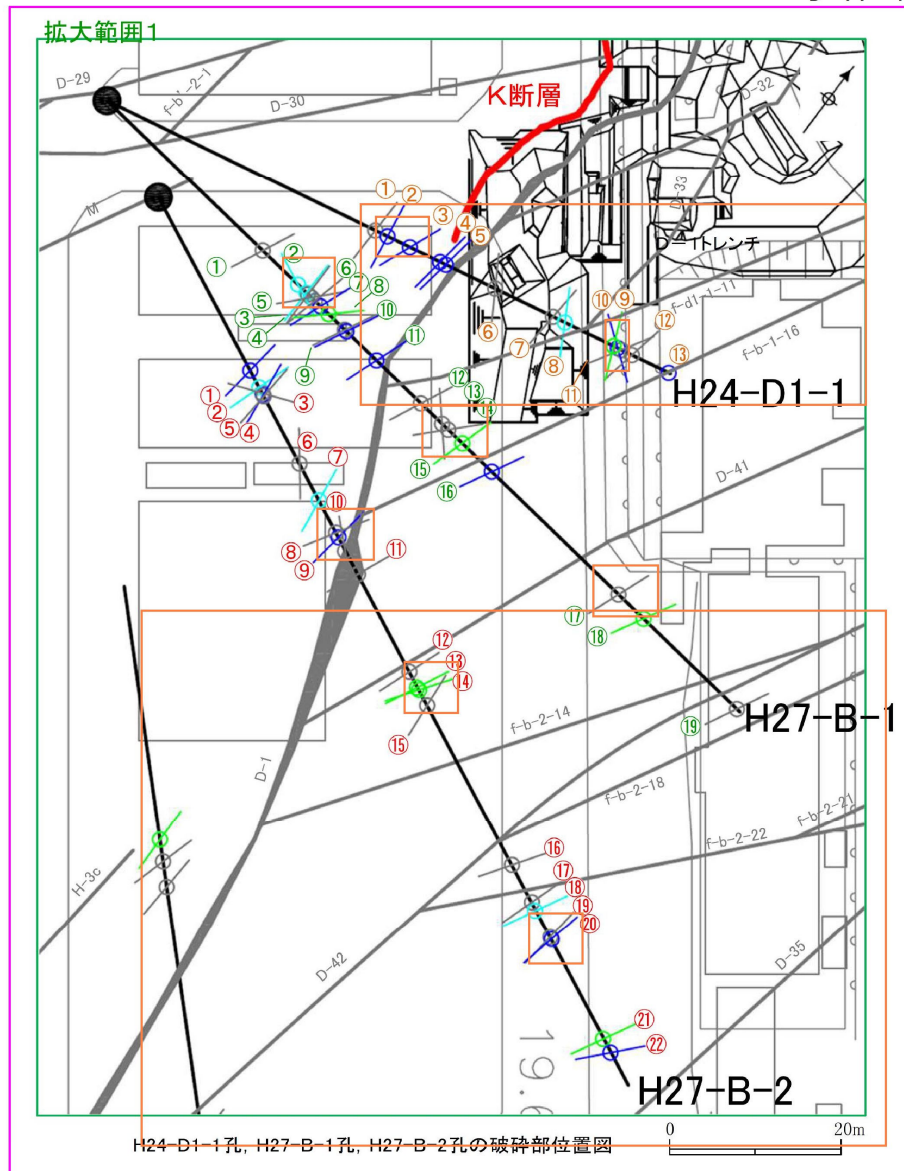
- ①: 破碎部番号 (H24-D1-1孔)
- ①: 破碎部番号 (H27-B-1孔)
- ①: 破碎部番号 (H27-B-2孔)

凡例	
●	ボーリング孔
—	破碎帯 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
↗	カタクレーサイトからなる破碎部
↘	断層ガウジを伴う破碎部 (正断層センス卓越)
↖	断層ガウジを伴う破碎部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↙	断層ガウジを伴う破碎部 (横ずれセンス卓越)

48~51, 76, 157 : 走向・傾斜等の修正内容を反映。これに伴い、関連する周辺破碎帯の分布を修正。
 ・ f-d1-1-11, D-33, f-b-1-16, f-d1-1-10
 ・ D-44→f-b-2-18,

修正後

K断層の連続性評価について



- ①: 破碎部番号 (H24-D1-1孔)
- ②: 破碎部番号 (H27-B-1孔)
- ③: 破碎部番号 (H27-B-2孔)

凡例	
●	ボーリング孔
—	破碎帯 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
↗	カタクレーサイトからなる破碎部
↘	断層ガウジを伴う破碎部 (正断層センス卓越)
↖	断層ガウジを伴う破碎部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↙	断層ガウジを伴う破碎部 (横ずれセンス卓越)